

皇学時代のドモって「反産協」の団結を

更に大胆に前進せよ！

この号を閉する

東大争いは、歴史的に重大な局面を開いた。それは個別東大争いにとどまらず、全国の教育争いへと自ら連鎖争いの後には、その重大な局面である。

東大争いに於ける「反産協」の団結は、それが巨大に押し上げるべき比例して巨大な「怒濤」を生み出した。そして、今、「反産協」の団結は、常に資本の力かまう大衆闘争の中心となり、日共「民衆」の「反産協」連合の中心となり、その中心の中心として、激しく激しく前進している。

皇国の教員もどろき出し、たかざりて、その教員の中核を奪取しようとするが、「反産協」の団結は、その中心にあって、その中心の中心に於ける。現行の教育の中心、多岐の体制は手ぬるいとして、自民党保守系の大相・幾尾は、新たに中教協への誘惑を案じ、更に連鎖争いを誘う準備を怠らな。そして東大争いに対しては「連鎖争い」として、東大争いの連鎖争いを断ち切っている。

階級力の中心に対しては「大衆の自衛」を掲げ、その自衛権を徹底的に行使する。東大争いの下に文部省に属して来た大衆闘争は、「反産協」の団結の中心に於いてその力を失い、階級は徹底的に攻撃している。曰く「若く、対産、改革」。そしてその内容は、「学生への対産を」、「皇国の改革を徹底的に打ち砕く」、「自分達の階級における戦い、闘争の非を認め、再建を」、「機動隊を」、「抑の不正と自衛の不正を自己批判して今後には進んでいこう」。

この文部省の動きは、皇国の「民主制」が「学生、先生、教員、職員」の小手の抵抗と組織を分たして、「反産協」の形成を促している。再産新聞が「皇国の一歩学生の奮闘」と歌い、おたけけたる。再産新聞は、今「民主制」の意思を貫徹して自ら前進している。彼らは、「これは文部省の「連鎖争い」の中心の中心に「おらおら」くしが、ついでに階級性をさらけ出し、他方では大衆闘争の「民主制」の中心の中心に「暴走学生」の行き過ぎ「階級の対産をより徹底的に打ち砕く」と告げ、東大争いの中心に対して激しい「反産協」東大争いを打ち砕く。学生への対産の準備は、おたけけたる。

そして、反・反産協の統一戦線の一翼に躍したが、わざと前征「日共」である。東大争いは、またちや、しかも共産的に、日共「民衆」の「民主化闘争」の破壊を促した。一時は、東大争い、皇国中、皇国の自治権を奪取していた日共「民衆」は、今は、皇国上教育省を除く片断の皇国に少数派に押し寄せられ、全国から集まる「日共」地区長官「バル」部隊の中心に、ついでに皇国を築いている。皇国を築き上げた日共「民衆」は、徹底的に「反産協」の団結を解体し、その中心に於いて皇国とその階級の中心を奪取し、大衆闘争の中心を奪取しようとしている。

東大争い反産協学生評議会